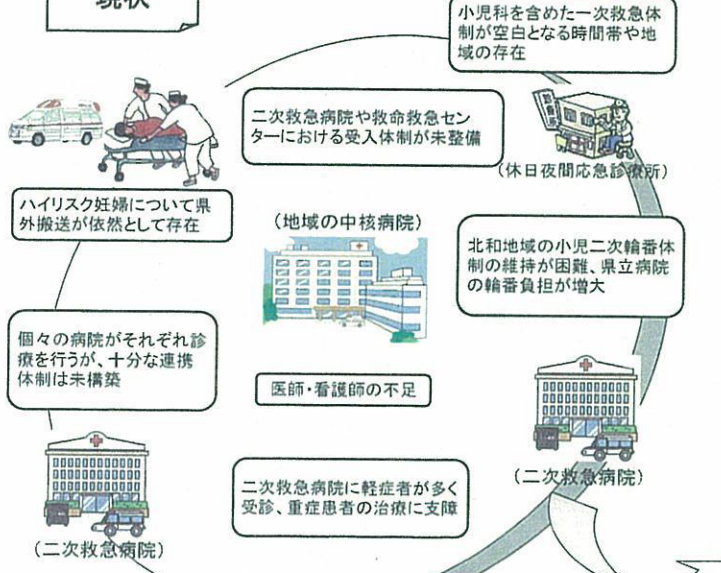
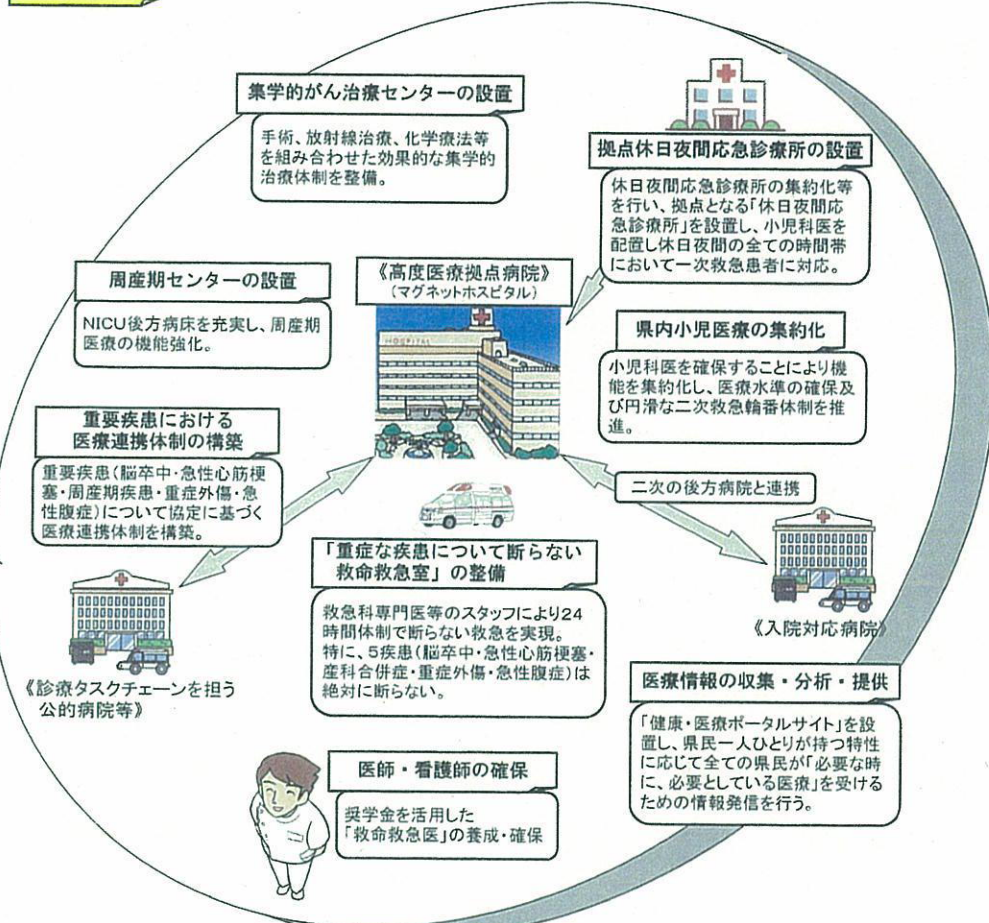


# 奈良県地域医療再生計画（北和地域：奈良医療圏・西和医療圏、救急・周産期・小児医療等に重点）

## 現状



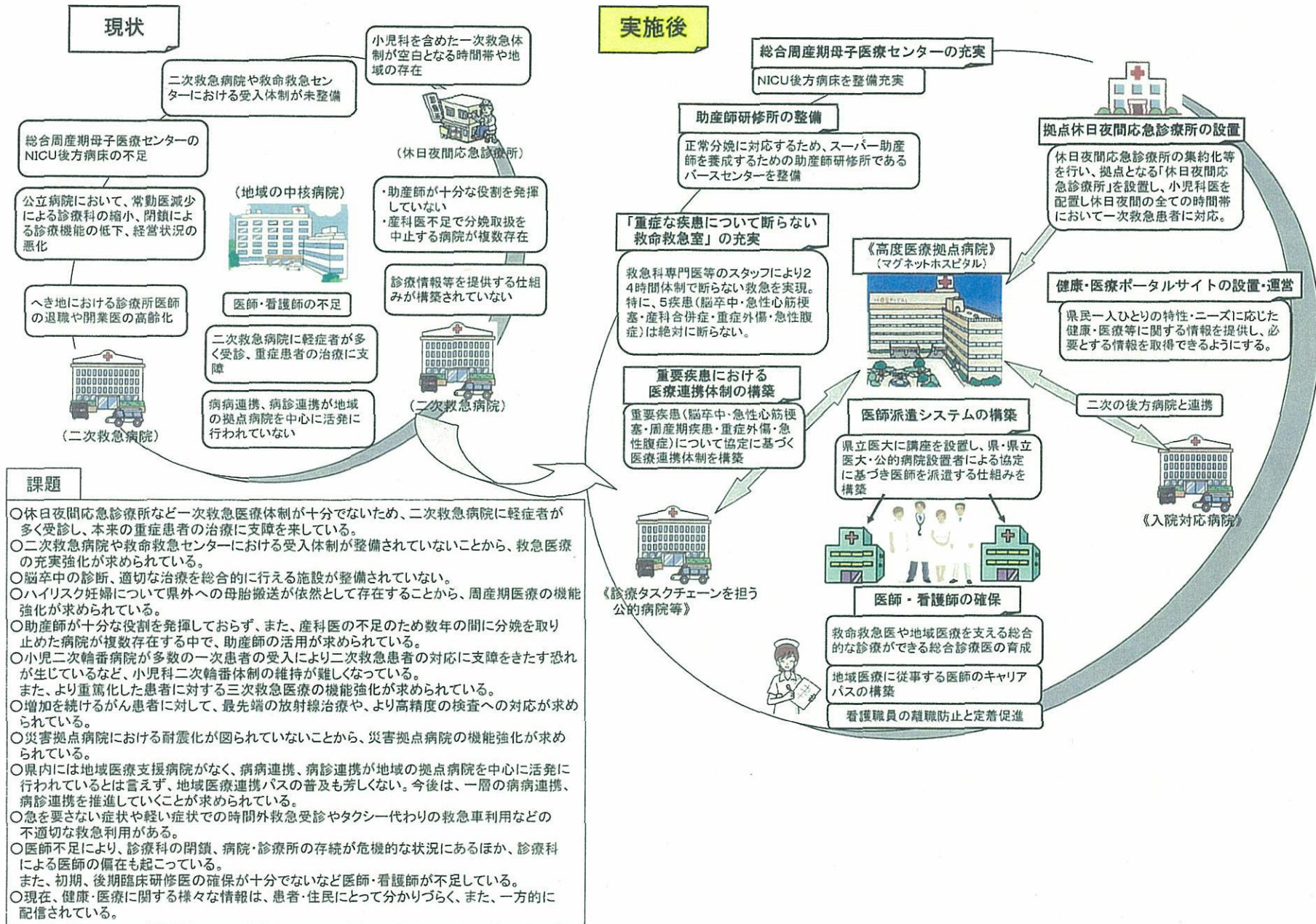
## 実施後



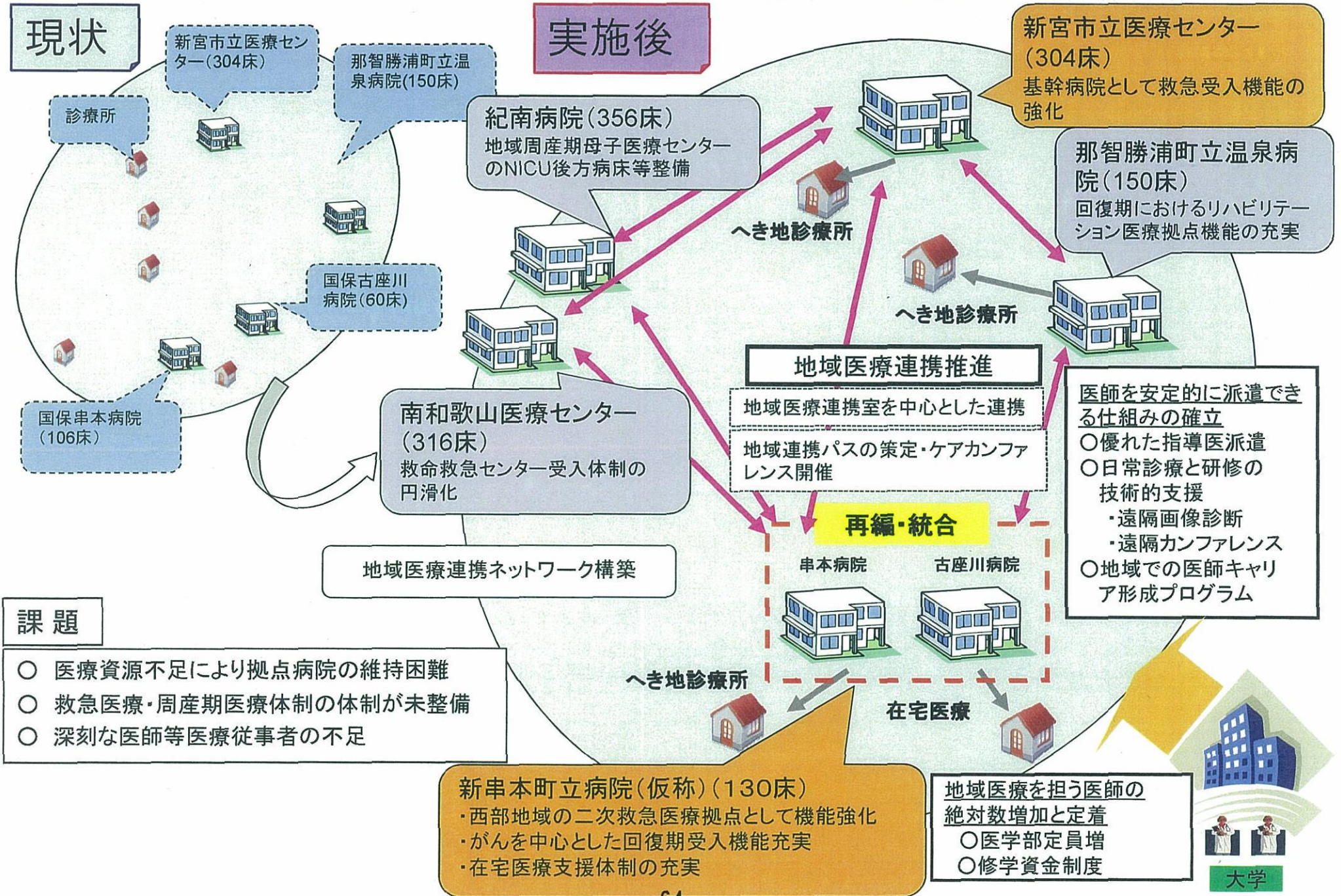
## 課題

- 休日夜間応急診療所など一次救急医療体制が十分でないため、二次救急病院に軽症者が多く受診し、本来の重症患者の治療に支障を来している。
- 二次救急病院や救命救急センターにおける受け入れ体制が十分でないことから、救急医療の充実強化が求められている。
- 急性心筋梗塞の診断、適切な治療を行う体制は整備されているが、今後も現体制を維持・充実していくことが求められている。
- 脳卒中の診断、適切な治療を総合的に行える施設が整備されていない。
- 麻酔科医の不足により十分な医療が提供されていないことから、麻酔科の効率的な運用が求められている。
- ハイリスク妊婦について県外への母胎搬送が依然として存在することから、周産期医療の機能強化が求められている。
- 小児科医の減少から地域の小児二次輪番体制の維持が困難となっており、県立病院の医師の負担が大きくなっている。
- 初期・後期臨床研修医の確保が十分でないなど医師・看護師が不足していることから、人材の確保・養成が求められている。
- 臨床研究を推進する十分な施設と人材が不足していることから、充実強化が求められている。
- 地域の医療機関との患者情報の共有が図られていないことから、地域、院内及び救急隊を含めたIT化による診療情報の共有化が求められている。
- がんにおける手術、放射線治療及び化学療法等を組み合わせた効果的な集学的治療を行う人材・施設が不足しており、また、十分な緩和ケア体制が整備されていないことから、がん診療拠点病院の機能強化が求められている。
- 災害拠点病院における耐震化やヘリポートが整備されていないことから、災害拠点病院の機能強化が求められている。
- 県内には地域医療支援病院がなく、病病連携、病診連携が地域の拠点病院を中心に活発に行われているとは言えず、地域医療連携バスの普及も芳しくない。今後は、一層の病病連携、病診連携を推進していくことが求められている。
- 地域の中核病院を中心とした地域医療ネットワークにおいて、診療情報等を共有し、地域医療連携バスに活用することが求められている。

奈良県地域医療再生計画（中南和地域：東和医療圏・中和医療圏・南和医療圏、救急・医師看護師等確保に重点）

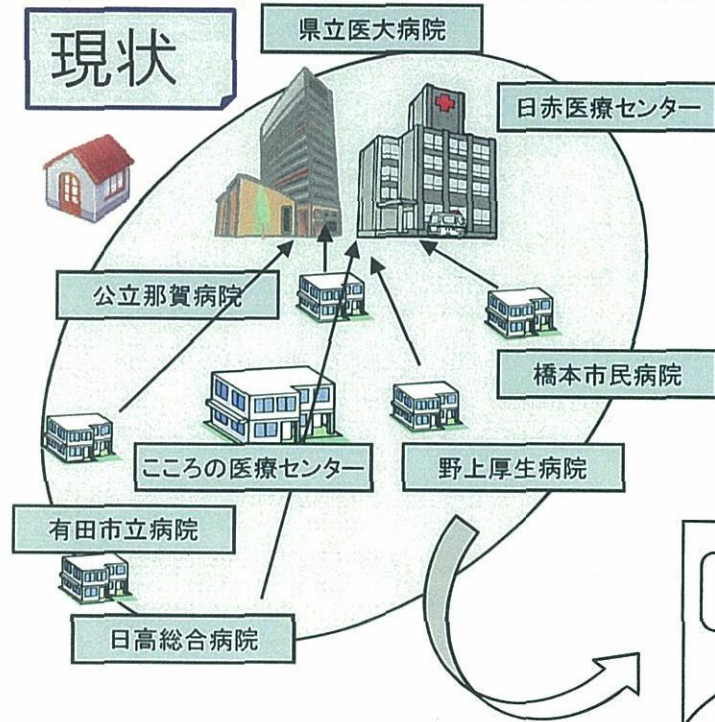


# 和歌山県地域医療再生計画(紀南地域:医師確保・医療連携に重点化)



# 和歌山県地域医療再生計画(紀北地域:救急・周産期医療体制に重点化)

## 現状



## 実施後

### 県立医大病院(800床)

- ・救命救急センター救急外来への観察室等の整備
- ・総合周産期母子医療センターのNICU等の増床整備
- ・小児医療センター(仮称)の県内初のPICUの整備

### 日赤医療センター(865床)

- ・救命救急センター救急外来への観察室等の整備

- ・三次・二次・一次救急医療連携体制の確立
- ・拠点病院の救急医療機能強化と機能分担の促進
- ・周産期医療体制の強化と広域的連携体制の構築

## 課題

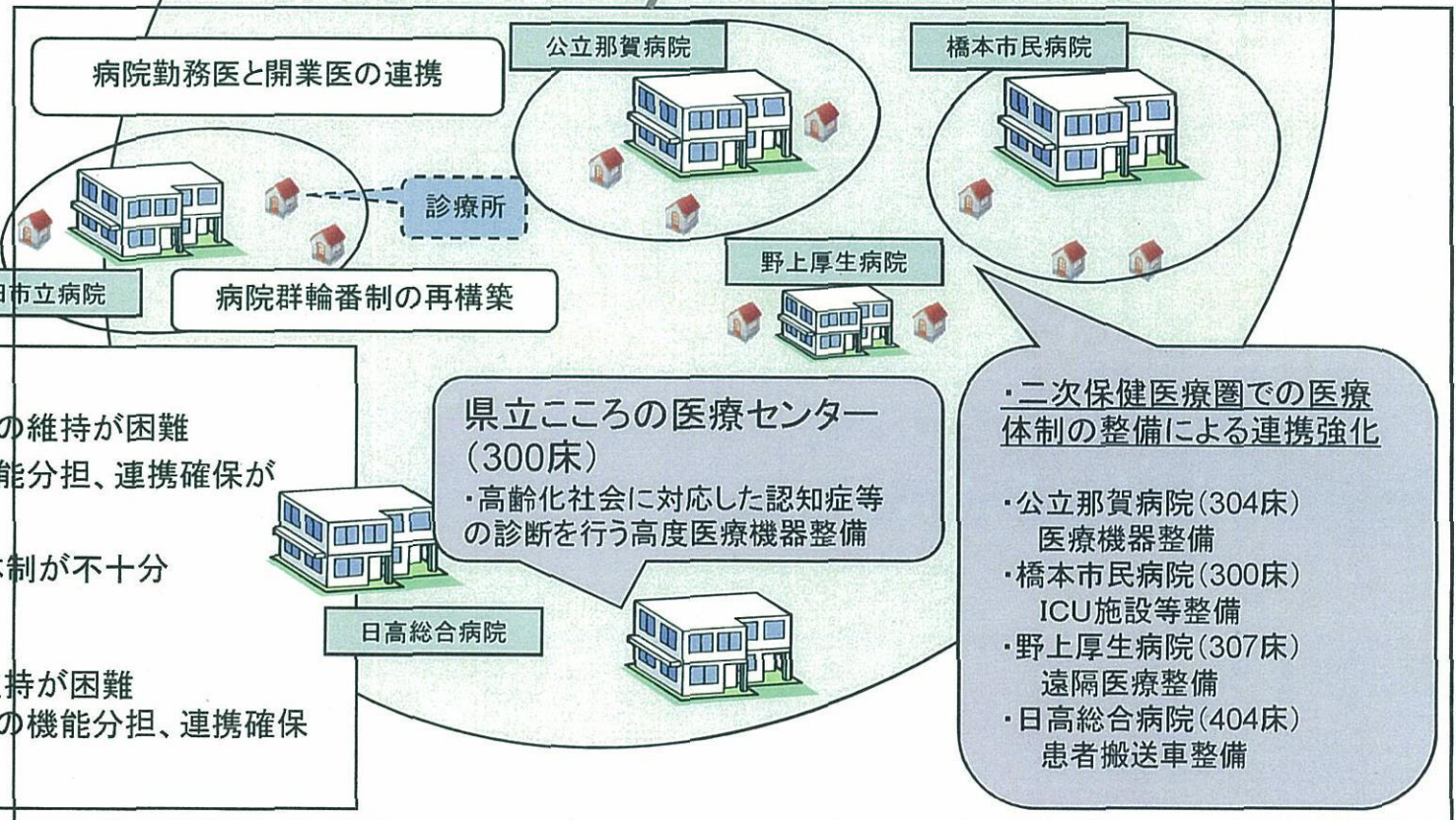
### <救急医療連携体制>

- 医師不足により、中核的病院の医療機能の維持が困難
- 医師不足により、救急医療機関相互の機能分担、連携確保が不十分
- 高齢化社会に対応した精神課救急連携体制が不十分

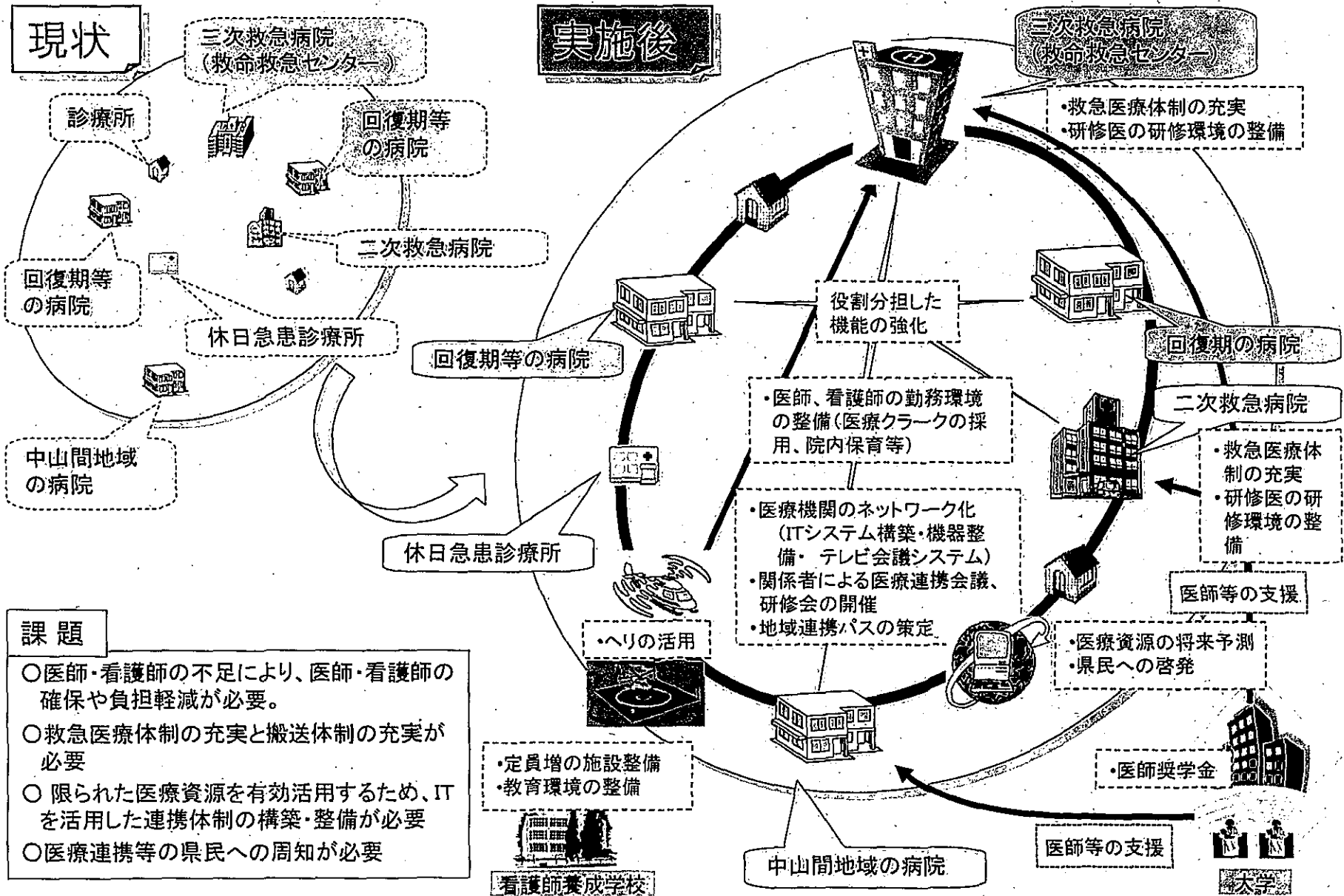
### <周産期医療連携体制>

- 総合周産期母子医療センター医療機能維持が困難
- 産科医不足により、周産期医療機関相互の機能分担、連携確保が不十分

### 病院勤務医と開業医の連携



# 鳥取県地域医療再生計画(東部:救急医療、医療連携等に重点化)



- 課題**
- 医師・看護師の不足により、医師・看護師の確保や負担軽減が必要。
  - 救急医療体制の充実と搬送体制の充実が必要
  - 限られた医療資源を有効活用するため、ITを活用した連携体制の構築・整備が必要
  - 医療連携等の県民への周知が必要